

No
31

相手の思いを聞きながら、自分の気持ちを伝えようとする。

…人とかかわり…

なかなおり

手紙を巡るトラブルの解決

11月

☆ 視点に関わる背景（4月からの状況） ☆

年度当初のクラス内には、複数年同じクラスに在籍して進級してきた継続児と5歳児になってから転園してくる子どもが混在していた。そのため、スムーズな意思疎通が誰とでもできる状況ではなかったが、9月の運動会等を経験する中で、仲間意識が育ち、互いの思いを受け入れられるようになってきた。

接続期に入り、個人差は大きいものの文字に興味をもつ子どもが増えてきたので、保育者は、ポストを設置する等、遊びの中でいつでもお手紙ごっこができるよう、環境設定を工夫してきた。

☆ 接続期の状況 ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり

保育者の援助・視点

- ・ 文字に興味が出てきた子ども間ではお手紙ごっこが盛んになってきた。
- ・ 夕方の自由遊び時間に、男児Aが母親宛に書いている手紙の内容に、男児Bが興味を示し、見ようとする。
- ・ Aは、「見ないで！」と何度か断るが、気持ちの面で幼さがあるBは、行動を止めることができず、無理に手紙を見ようとする。
- ・ 我慢できなくなったAはBを叩き、Bもやり返したため、激しいけんかになる。
- ・ 保育者は互いに思いをぶつけ合っている二人の行動、やりとりをしばらく見守る。

- ・ はじめは、双方ともに「相手が先にやってきたから、相手が悪い」と主張する。



- ・ しばらくして会話が始まる。
A：お母さんに渡す大事な手紙だった。Bくんにみて欲しくなかった。
B：秘密にしていたので、見たくなくなってしまった。無理に見なければよかった。
A：B君にもお手紙書いてあげる。

- ・ 双方が落ち着いて気持ちを話し、相手の話を聞こうとする姿が見られる。

- ・ 興奮状態であったため、場所の移動を促す。
- ・ この時期の幼児の特徴として「自分の思いを言葉で表現する事」や「友達の意見に耳を傾ける事」が可能になってくる時期である。そこで保育者はすぐに介入はせず様子を見守る。
- ・ 保育者は「先にやったのはどちらか」ではなく①「何が嫌だったのか？」話す事 ②「相手の話は最後まで聞く」事というルールを提案する。それ以外は介入せず子ども達に任せる事にする。

- ・ 話し合いの途中にAの母が迎えに来る。子ども達から離れた場所で状況を伝える。自分の思いを出し合う経験の大切さを伝え、話し合いが終わるまで待ってもらおう。



- ・ 話し合いが終わった後、Aはスッキリした表情で母親に「Bくとけんかしちゃったんだ。でも明日、お手紙を書いてあげる約束をしたよ！」と話す。
- ・ 翌日、AはBに、約束した手紙をよい表情で渡す。Bも嬉しそうな表情を見せる。

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

接続期の幼児は運動会、生活発表会など共通の目的に向かった活動を経験する中で「協力する事」や「仲間意識」が育ち、相手の思いを受け入れながら自分の思いを伝えようとする様になる。しかし、発達には個人差があり、自分の思いを伝えながらトラブルを解決するのは難しい幼児もいる。事例のように保育士が話し合う時の約束の提案等をし、お互いが自分の思いを伝え合い納得して解決できたという思いを持たせるように援助している。また、前日のわだかまりが解消されていなかった場合、翌日もトラブルを引きずることもあるので、その場面だけで判断せず、数日その子どもの様子を見守るようにしている。